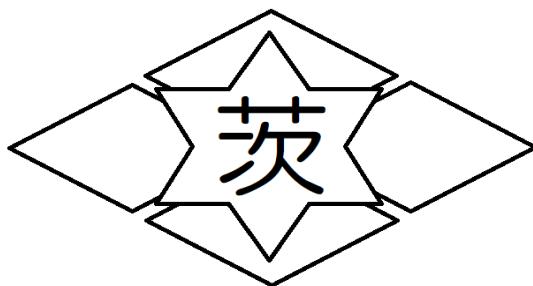


令和 7 年度
「運営に関する計画」



大阪市立茨田中学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】学校アンケートで、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、昨年度最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 7 月が 83.2%、12 月が 81.2% であった。今年度は年度末まで意識が下がらないように意識づけしていきたい。また、不登校は大阪市だけでなく本校にとって大きな問題であり、減少に向け関係諸機関や地域・家庭と連携し様々な働きかけを行い中期目標を達成したい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】コロナが収束していく中で「主体的で対話的な深い学び」の活動の時間を確保できるようになってきた。そのため、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合が昨年度は 45%、肯定的な回答は 85% まで上がった。今年度も引き続き向上させたい。体力面はコロナ禍で大きく上昇しておらず、運動の強度を上げつつ、「楽しい授業」を行いたい。

【学びを支える教育環境の充実】一人一台端末の有効利用について、今年度の市の活用目標を達成するよう「こころの天気」を含め活用する。教職員の働き方については、ストレスチェックとともに中期目標が達成できるよう年休の取得と残業時間の短縮を促していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85% 以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- 令和 7 年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90% 以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を 85% 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80% 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50% 以上かつ肯定的な回答をする生徒の割合を 75% 以上にする。
- 令和 7 年度末中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- 令和 7 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50% 以上にする。

- 規則正しい生活を身に付けている児童生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それに対して、肯定的な回答をする児童（生徒）の割合）を令和7年度末校内アンケートにおいて、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 ICT委員会
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和7年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。 R5 81.2% R6 80.1%
- 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。 R5 10% R6 9.2%（2月末現在）

学校園の年度目標

- 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。 R5 94% R6 93.5%
- 令和7年度の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を85%以上にする。 R5 75.8% R6 70.6%
- 令和7年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 R5 98.6% R6 98.1%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合（R5 45%）かつ肯定的な回答をする生徒の割合（R5 85%）をそれぞれ50%, 75%以上にする。 R6 40.5%. 85%
- 令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

現3年 国 R5 97→R6 99 数 R5 104→R6 99

現2年 国 R5 103→R6 100 数 R5 100→R6 100

- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合（R5 53.5%）を50%以上にする。 R6 54%

学校の年度目標

- 「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を 80% 以上にする。 R5 85.4% R6 83.3%

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 授業日において、生徒の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
R6 6.9% (1月末現在)

- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。

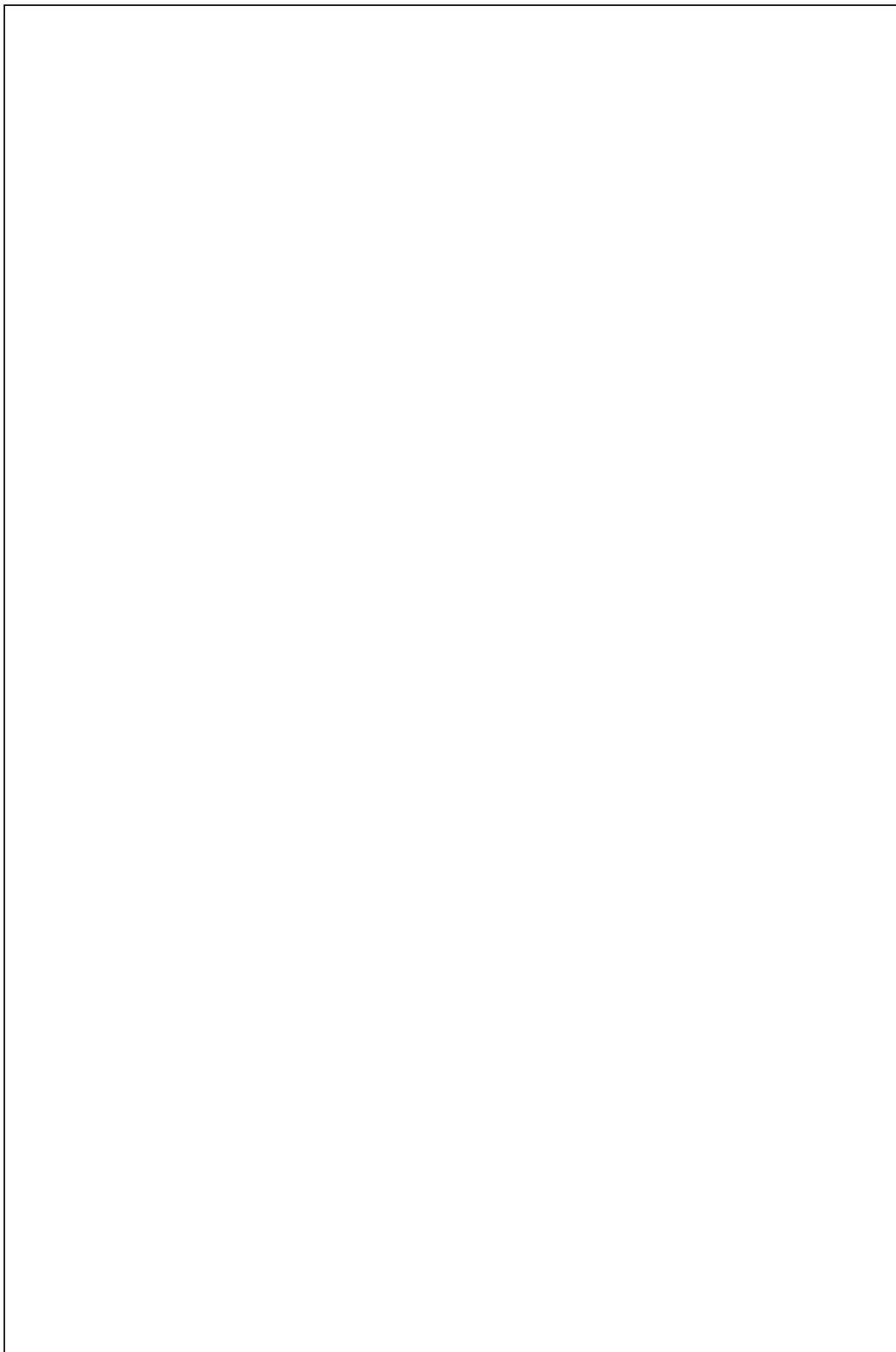
R5 82.9% R6 84% (3月末現在)

学校の年度目標

- 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90%以上にする。

R5 97% R6 97.3%

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立茨田中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 7 年度末の校内アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。 ○ 毎年度末の校内調査において、不登校の生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 7 年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。 ○ 令和 7 年度の校内調査の「ごみの落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を 85%以上にする。 ○ 令和 7 年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。 | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学期に 1 回以上、いじめについてのアンケートを実施するとともに、教育相談などを通して生徒理解を図る。また、いじめ案件を認知した際は問題対策委員会を早急に開催し、学校全体の問題として解決に向けて取り組む。</p> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学級担任を中心に、電話連絡および家庭訪問を行い、不登校生徒が一人でも多く学校に登校できるように改善を図る。また、昨年度と同様に別室登校用の部屋を作り、教育相談などを行いながら生徒理解を図る。</p> <p>指標</p> <p>前年度末の時点で、在籍生徒に対する不登校傾向のある生徒の割合が、3 年生に</p> | |

において 14%、2 年生において 10%、1 年生において 7 %である。不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

避難訓練を火災、地震の 2 回行い、災害時の避難経路を理解させ、災害があつた際の避難方法に慣れさせておく。

指標

年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

生徒が主体的に美化活動に取り組めるように、計画的に専門委員会の活性に努める。

指標

年度末の校内調査の「ごみが落ちていないきれいな学校」の項目で肯定的な回答を 85%以上にする。

取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】

道徳科の授業を要とし、学校の教育活動全体で「一人ひとりのちがいを大切にする心」を育成する。そのために、道徳教育全体計画別葉をもとに道徳科と他の教育活動との連携を図る。

指標

年度末の校内調査の「一人ひとりのちがいを大切にしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

取組内容②

取組内容③

取組内容④

取組内容⑤

次年度への改善点

取組内容①

取組内容②

取組内容③

取組内容④

取組内容⑤

大阪市立茨田中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| |
|----------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した |
|----------------------|

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合（R5 45%）かつ肯定的な回答をする生徒の割合（R5 85%）をそれぞれ 50%、75%以上にする。 ○ 令和 7 年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。 ○ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合（R5 53.5%）を 50%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 7 年度末の校内アンケートの「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を 80%以上にする。 R5 85.4% | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 グループ学習を通して話し合う中で、自分の考えを深め広めさせる。</p> <p>指標 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 50%かつ肯定的な回答をする生徒の割合 75%を昨年度以上にする。</p> | |
| <p>取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ICT 機器を利用するなど、教材等を工夫して授業を行い生徒に意欲を持たせる。</p> <p>指標 生徒アンケートでの「数学の学習はわかる」「国語の授業はわかる」という項目でそれぞれ 80%以上の肯定的な回答を目指す。</p> | |
| <p>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ICT やペアワーク、グループワークを取り入れた英語活動を行う。</p> <p>指標 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を大阪市平均以上にする。 R6 61.14 （市 57.5）</p> | |
| <p>取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 生徒一人一人の技能にあった目標を設定し、仲間と協力して意欲に取り組むことのできる環境作りに努める。</p> <p>指標 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%</p> | |

| | |
|--|--|
| (R6 54%) 以上にする。 | |
| 取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 来室生徒や保健だより等で、規則正しい（健康的な）生活習慣についての重要性を呼びかけ、生徒自身が自分で健康管理ができる方法を見つけさせる。 | |
| 指標 令和 7 年度末の校内アンケートの「学校・家庭において正しい生活習慣を守っている」の項目で肯定的回答を 80% 以上にする。 | |
| 取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 給食時間や教科との連携により、より良い食習慣を身に付け、食への関心を高めさせる。 | |
| 指標 ・令和 7 年度末の調査で副食の平均残食率を 10 % 以下にする。 ・食に関する授業を教科と栄養教諭と連携し、1 回以上行う。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 取組内容① | |
| 取組内容② | |
| 取組内容③ | |
| 取組内容④ | |
| 取組内容⑤ | |
| 次年度への改善点 | |
| 取組内容① | |
| 取組内容② | |
| 取組内容③ | |
| 取組内容④ | |
| 取組内容⑤ | |

(様式 2)

大阪市立茨田中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く] ○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90% 以上にする。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |

| | |
|--|--|
| 取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】校内研修を行ったり、ICT 支援員の訪問を有効活用することで学習者端末の有効的な活用方法を共有し、授業において使いやすいツールであることを発信していく。 R5 91% R6 92% | |
| 指標 年度末のアンケートにおいて「ほぼ毎日」と答える生徒を 85 % 以上にする。 | |
| 取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 昨年度に引き続き、年休や休暇の取得を促し、様々な業務を分担することで仕事の負担感を軽減し教職員の心身の健康に留意させる。 | |
| 指標 ストレスチェック集団分析結果で、健康リスクの数値を昨年度と同様を維持する。R5 90 R6 101 | |
| 取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 民生委員との連携など地域との関係性を高める。また、ホームページなどで学校の取り組みを積極的情報を発信し、透明性を高める。 | |
| 指標 年度末の保護者アンケートの「学校では、社会のルールを守る態度を育てようと努めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90% 以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 取組内容① | |
| 取組内容② | |
| 取組内容③ | |

| |
|----------|
| 次年度への改善点 |
| 取組内容① |
| 取組内容② |
| 取組内容③ |

大阪市立茨田中学校 令和7年度 学習指導目標(教科)

国語科

年度目標：国語への興味関心を高め、特に「書くこと」の向上に努める。

| 取り組み内容 | 評価 |
|---|----|
| ① 教材等を工夫し、学校生活アンケートにおいて「国語の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が80%を超えるように努める。 | |
| ② 単元の終わり等、定期的に文章を書く機会を設け「書くこと」への抵抗感を減らすよう努める。 | |
| ③ 定期テスト等における「思考力、判断力、表現力等」の分野の解答率が60%を超えるよう、指導の充実を図る。 | |

社会科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる。

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 基本的な用語の定着をはかるため、資料や視聴覚教材を活用し、学校生活アンケートで「社会の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が全学年で85%を超えるようにする。 | |
| ② 読解力や資料活用能力を育む観点から、積極的に教科書から読み取る場面を増やす。学期ごとの教科独自のアンケートで、「教科書を利用して学習した」という回答を83%以上にする。 | |

数学科

年度目標：自主的に学習する態度を養い、基礎学力の定着をはかる。

| 取り組み内容 | 評価 |
|---|----|
| ① ひとりひとりの生徒の実態を的確に把握し、提出物については85%以上の提出率を目指す。 | |
| ② 数学に興味をもてるよう ICT 機器を活用し、生徒アンケートでの「数学の学習はわかる」という項目で、80%以上の肯定的な回答を目指す。 | |

| | | |
|---|--|--|
| ③ 学期に3回以上は教科会を行い、それぞれの教材や取り組み内容などを共有する。 | | |
|---|--|--|

理科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 生徒のまわりにある身近な例をとりあげたり、ICT機器を活用したりすることで、理科に対する興味・関心を高め、学校生活アンケートで「理科の学習は楽しい」の項目で、肯定的回答が85%を超えるようにする。 | |
| ② 実験・観察などグループワーク等の時間を多くとりいれ、基礎学力の定着をはかり、学校生活アンケートで「理科の学習はわかる」の項目で、肯定的回答が85%を超えるようにする。 | |

音楽科

年度目標：学習意欲を高め、基礎的な能力の充実をはかる。

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 音楽活動を通じて音楽を形作っている要素を知覚させ、用語や記号、楽譜、発声法、楽器の奏法などの知識や技能を理解させ、基礎的な能力を伸ばす。 | |
| ② 合唱コンクールなどの取り組みを通して音楽活動に進んで参加させ、その楽しさを体験させる。発表の場を、年間3回以上設ける。 | |
| ③ 音楽鑑賞を年間3時間以上行い、鑑賞を通じて音楽の良さを幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。 | |

美術科

年度目標：苦手意識を取り除き、興味関心を持たせ主体的に取り組ませる。

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 忘れ物をなくし、授業の準備、後始末をしっかりと素早く行えるようにする。 | |
| ② 授業を計画的に進め、提出期限内に提出するように指導する。作品提出率を80%以上にする。 | |
| ③ 課題に主体的に取り組ませるために興味関心を持たせる手立てを考え、向上心を持って授業に集中させるように指導する。自己評価カードの記入を通じて自立的に取り組む能力を育てる。 | |

保健体育科

年度目標：集団の一員としての責任感を育て、自己の課題に自主的に取り組む態度を育成する。

| 取り組み内容 | 評価 |
|-------------------------------------|----|
| ① 実技指導を通して、集団行動を身につけさせ、運動に親しむ心を育てる。 | |

| | | |
|--|--|--|
| アンケートでは、運動やスポーツをすることが好きだという項目で肯定的意見を80%以上にする。 | | |
| ② 基礎体力の向上と自己の課題と向き合い、主体的に課題に取り組む態度の育成に努める。 | | |
| ③ 保健指導を通して、心身ともに健康な生活を送るための知識理解を深め、自己の健康管理のできる生徒の育成に努める。また、生命の大切さに気付かせる。 | | |

技術・家庭科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、自立した生活に必要な基礎知識と基礎技術の習得を図る。

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 技術分野・家庭分野共に、授業に意欲的に参加し、興味・関心をもって取り組んでいるかの指標として、「授業がわかる」が75%以上の肯定的評価を得られるように、授業を工夫する。 | |
| ② 技術分野では、教科内容の知識と技能の定着を図り、その指標として、実習における80%以上の生徒の作品の完成を目指し、指導に当たる。 | |
| ③ 家庭分野では基礎知識と基礎技術の定着を図り、さらに発展させるための指標として、授業内容に併せて出す課題やレポートなどの提出率を75%以上にする。 | |

英語科

年度目標：生徒の学習意欲を高め、基礎学力の充実をはかる。

| 取り組み内容 | 評価 |
|---|----|
| ① 帯活動やグループ活動、ICT機器を活用し、学校生活アンケートで「英語がわかる」の項目で、肯定的回答が80%を超えるようにする。 | |
| ② 基礎学力の充実をはかるために課題等の提出率が80%を超えるようにする。 | |

特別支援(インクルーシブ)教育

年度目標：自立を念頭に置き、生徒自らが特性に気付けるように自立活動を取り組む。また、主体的な進路選択及び決定ができるように連携する。

| 取り組み内容 | 評価 |
|--|----|
| ① 合理的配慮をふまえ、個に応じた支援のもと支援体制を充実させる。また、「指導計画」や「支援計画」を保護者と作成し、教職員間での連携を図る。 | |
| ② 個々の教育的ニーズを把握し、個に応じたアセスメントに基づく支援内容や指導を計画する。 | |
| ③ 進路選択に向けて、さまざまな情報を提供する。また、インクルーシブ教育推進スタッフの巡回等で、進路や支援体制などの相談を活用する。 | |

結果と分析

【国語科】

【社会科】

【数学科】

【理科】

【音楽科】

【美術科】

【保健体育科】

【技術家庭科】

【英語科】

【特別支援（インクルーシブ教育）】

次年度への改善点

【国語科】

【社会科】

【数学科】

【理科】

【音楽科】

【美術科】

【保健体育科】

【技術家庭科】

【英語科】

【特別支援（インクルーシブ教育）】